



2015年10月2日

今回の博物館だよりは、現在開催中の秋季特別展「橋本海関・関雪展-父子の歩み-」(～25日まで) 関連イベントの9月27日(日)に行われました講演会「橋本関雪について」の様子についてと、作品を紹介いたします。

秋季特別展～作品紹介③～



～橋本関雪「赤壁賦図」 大正9(1920)年 当館蔵～

1082年、北宋の詩人・蘇軾は友人と赤壁を訪れ、2度目の船遊びを楽しみました。その際に詠んだ詩「後赤壁賦」をテーマにした六曲一双の屏風です。

冬の月夜、水量の減った長江ではあちこちに石が露出し、壮大な岸壁は舟に迫りくるようです。左隻(左半分)には、船をかすめて飛び去ったという1羽の鶴と岩だけが見えます。描くモチーフを減らすことで、長江の広大さを強調しています。

この屏風をジグザグに立てると、手前に出っ張る部分に岩が描かれており、立体的に見えます。関雪は屏風の見えかたを意識して構図を考えたのでしょうか。ぜひ展示室で実物を見て、屏風ならではの立体感を味わってみてください。

講演会「橋本関雪について」



9月27日(日)午後2時～木村重圭氏(美術史家)を講師に、講演会「橋本関雪について」が行われました。会場はほぼ満席状態となり、多くの方が講演会を傍聴されました。

講演会では、動物や中国を描いたものなど、関雪の様々な作品について細かく紹介。1点ずつじっくりと解説されました。木村氏の分かりやすい、ウィットに富んだお話しに参加者の皆は集中して講演会を楽しんでいました。

今回紹介された作品は特別展では展示していませんが、どれも素晴らしく、改めて関雪の作品をじっくりと鑑賞したくなるような、講演会となりました。

❖学芸員による作品解説 今後の開催日程❖

※当日自由参加(要当日観覧券)

10月4日(日)、11日(日)、14日(水)、18日(日)

午前11時～、午後3時～(約30分)

詳しい展覧会情報は
当館HPをご覧ください。

<http://www.akashibunpaku.com>
次回の「博物館だより」をお楽しみに。